



Title	母子保健事業におけるたばこ対策の取り組み：4ヶ月 児両親の喫煙状況調査結果を通して
Author(s)	楠, すみ子
Citation	大阪公衆衛生. 2004, 75, p. 6-8
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83506
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

母子保健事業におけるたばこ対策の取り組み ～ 4 ヶ月児両親の喫煙状況調査結果を通して～ 東大阪市保健所健康づくり課主幹 楠 すみ子

I. はじめに

健康日本21東大阪市版計画の策定にむけ平成14年6月、7月の4ヶ月健診対象865人の両親に「4ヶ月児の両親喫煙調査」を実施しました。調査の結果から母子保健事業におけるたばこ対策の取り組みについて紹介いたします。

II. 4ヶ月健診時両親の喫煙状況調査

<目的>

近年の若年層の喫煙率が高いことから、たばこの害の啓発を行うため乳児を持つ家庭の両親に喫煙状況ならびに防煙対策を探り、母子保健事業におけるたばこ対策の取り組みを強化することを目的に実施しました。

<調査の結果でわかったこと>

- 1) 80%の回答があり、年齢分布は父親、母親とも30歳から34歳が最も多く次いで25歳～29歳でした。
- 2) 喫煙状況では父親の喫煙率63%、吸っていたがやめた13%、母親の喫煙率20%、吸っていたがやめた21%でした。平成元年に884人に両親の喫煙について調査しました。今から15年前のことですが、その時の父親の喫煙率が64%で今回の結果と変わりないですが、母親の喫煙率は8.5%で、2倍半に増えていました。
- 3) 喫煙開始年齢は、父親63%、母親70%が10代で喫煙を開始していました。早期

からの対策が重要であると考えます。

- 4) 子供のいる部屋で喫煙する父親30%、母親31%で、受動喫煙による害が問題です。
- 5) たばこをやめた理由は、父親は体に悪いと思ったが42%と最も多く、妻の妊娠、出産が14%、母親は妊娠が69%と最も多く、妊娠がきっかけで父母とも禁煙する人が多いのがわかりました。
- 6) たばこの害について知っている項目では、妊娠中の害について知っているのは母親94%、父親61%、副流煙の害は父親72%、母親81%でした。歯周病、骨粗鬆症については知っている割合が2割と低かったです。これからあらゆる機会を捉えて啓発を進めていく必要があります。

III. 喫煙状況調査結果を受けて母子保健事業の取り組み

●母子手帳交付時の啓発

妊娠がきっかけで禁煙する両親が多いことがわかり、アンケートで喫煙のチェックを行い喫煙妊婦に個別面接指導、啓発パンフレットの配布をしています。夫の禁煙には積極的に支援を求める妊婦が多いが本人が喫煙している場合は触れてほしくないと拒否する人もいます。面接技術を高め保健師自身たばこ対策に関心を持ち、保健師間で情報交換を行い支援しています。

● 4ヶ月健診時の啓発

問診票にたばこの内容を追加、子どものいる部屋で喫煙している親に対して受動喫煙防止の啓発を始めました。禁煙希望者に対しては禁煙支援プログラムを提供しています。

● パパ・ママ教室での集団健康教育

● 地域の育児教室での啓発

エプロンシアターなど楽しく簡単に取り組める内容を考えています。

● 新生児、未熟児訪問時の啓発

家庭訪問では親も受け入れがよくゆっくり時間をかけて啓発が出来ます。

● 健康まつりでの防煙教育

親子で楽しめる人形劇、芝居を実施しました。(写真)



▲「たばこ星人」

IV. おわりに

従来から禁煙教育の参加者は市政だよりでPRしても壮年期の参加が多く若い人の参加は少ない現状です。今回の調査の結果からより早期からの啓発の必要性を感じ市政だよりも若い人に呼びかけました。また母子保健事業の中では積極的に啓発を進めています。教育の媒体にも工夫を凝らすため、家庭介護教室を終了した市民にたばこ啓発のための人形を作成してもらい活用しています。

健康まつりでは禁煙、分煙、防煙コーナを設け「お父さん、お母さんたばこを吸わないで」という人形劇と、ヘルスメイトによる「たばこ星人」の劇を市民グループと協同で取り組みました。今後はもっと市民参加を増やし「もくもく人形劇団」「エプロンシアター」の活躍を育児教室、保育園、幼稚園、小学校などにも広げ出前の防煙教育を推進し、子どもの喫煙ゼロをめざしていきます。

東大阪市・市政だより
(平成15年9月15日)より

禁煙にチャレンジしませんか
—大切な子どもを守るために—
母親の喫煙率が急増！

今年5月にスタートした健康増進法によって、受動喫煙の防止が義務づけられ、多くの人が集まる場所での禁煙、分煙が進んでいます。

しかし、新たな問題として、父親、母親の喫煙による子どもの受動喫煙が浮上しています。

市では、4か月の乳幼児を持つ家庭に喫煙状況を調査したところ、平成元年は父親64%、母親8%であったのが、平成14年では、父親は63%と若干少なくなっているものの、母親は20%と2倍以上の喫煙率になっています。このうち、子どものいる部屋でも吸うという父親が30%、母親も31%に上がり、受動喫煙による子どもの健康が危惧されます。

子どもが受動喫煙を受けることによって、ぜん息や肺炎になる確率が高くなるほか、赤ちゃんの突然死を誘発するなど子どもの身体に多大な悪影響を及ぼすことがわかっています。

たばこを吸うときは、必ず子どものいない場所で、十分に換気をして喫煙することを心がけて下さい。

また、中学校2、3年生を対象に行った「たばこに関するアンケート調査」では、喫煙している生徒の家族に喫煙者がいる割合が90%と高く、両親や兄、姉の喫煙の影響が大きいことがわかりました。保護者は小さいときから「たばこは有害である」という認識を子ども自身にもたせ、子どもの前では禁煙に努めることが大切です。

禁煙にチャレンジしませんか

—大切な子どもを守るために—



母親の喫煙率が急増！

今年5月にスタートした健康増進法によって、受動喫煙の防止が義務づけられ、多くの人が集まる場所での禁煙、分煙が進んでいます。しかし、新たな問題として、父親、母親の喫煙による子どもの受動喫煙が浮上しています。

市では、4か月の乳幼児を持つ家庭に喫煙状況を調査したところ、平成元年は父親64%、母親8%であったのが、平成14年では、父親は63%と若干少なくなっているものの、母親は20%と2倍以上の喫煙率になっています。このうち、子どものいる部屋でも吸うという父親が30%、母親も31%に上がり、受動喫煙による子どもの健康が危惧されます。

子どもが受動喫煙を受けることによって、ぜん息や肺炎になる確率が高くなるほか、赤ちゃんの突然死を誘発するなど子どもの身体に多大な悪影響を及ぼすことがわかっています。

たばこを吸うときは、必ず子どものいない場所で、十分に換気をして喫煙することを心がけて下さい。

また、中学校2、3年生を対象に行った「たばこに関するアンケート調査」では、喫煙している生徒の家族に喫煙者がいる割合が90%と高く、両親や兄、姉の喫煙の影響が大きいことがわかりました。保護者は小さいときから「たばこは有害である」という認識を子ども自身にもたせ、子どもの前では禁煙に努めることが大切です。

保健センターでは、禁煙のお手伝いをしています。若いお父さん、お母さん、子どもを守るために禁煙にチャレンジしませんか。

個別禁煙教室

◇とき 10月8日(水) 午前9時30分～11時30分、午後1時30分～3時30分

*午前か午後、参加できる方で、その後の日程(3か月間)は個別に相談のうえ決定します。

◇内容 呼気中一酸化炭素・尿中ニコチン濃度測定、卒園者体験談など

◇定員 30人(申込先着順)